



ごあいさつ

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長 中澤 靖夫

第29回日本診療放射線技師学術大会は9月20日～22日の3日間、島根県民会館・サンラポーむらくもにおいて小林一郎大会長（一般社団法人島根県診療放射線技師会会長）の下、中国・四国地域に所属する各県診療放射線技師会の全面的なご協力のおかげで開催できますことを、心よりお礼申し上げる次第です。

今大会のテーマは「国民・医療者と協働し、質の高い医療を提供しよう」であり、サブテーマは島根県民の文化風土を表した「神業が魅せる術^{わざ}」です。2013年は、出雲大社において60年に一度の大遷宮・本殿遷座祭が執り行われました。古来より、年に一度全国各地の神々がお集いになります。この学術大会も全国の神々に感謝しながら、診療放射線技師の業を魅せる大会へと成長させていきたいと考えています。

厚生労働省連携企画としましては「がん放射線療法における診療放射線技師の役割」「医療安全の推進について」「平成26年度診療報酬改定に向けて」の3演題です。各演題には厚生労働省健康局がん対策・健康増進課、厚生労働省医政局総務課医療安全推進室、厚生労働省保険局医療課の担当官に基調講演などをお願いしています。学術大会の国際化の取り組みとしては「History of ISRRT and its Role in the Education of Radiological Technologists」と題してVice-President, ISRRT; Maria Lawの講演、International Session 18演題の発表を予定しています。さらに本部企画として、消化器関連4団体による消化管画像検査従事者フォーラムの開催、放射線機器管理士分科会、放射線管理士分科会、読影分科会、がん放射線療法分科会による講演会の開催、マネジメント委員会、災害対策委員会、放射線検査説明・相談促進委員会、女性サミット委員会の報告を準備しています。

本会の大きな役割は、国民と協働し、医療者と協働し、質の高い医療を提供することです。平成22年4月30日厚生労働省医政局長から「医療スタッフの協

働・連携によるチーム医療の推進について」（医政発0430第1号）の通知が発せられました。診療放射線技師のさらなる役割として①画像診断における読影の補助を行うこと②放射線検査等に関する説明・相談を行うこと——が求められています。また平成23年12月22日、厚生労働省社会保障審議会医療部会の中では、診療放射線技師の新たな業務としてX線CT検査時やMRI検査時等における抜針・止血、下部消化管造影検査における直腸の位置確認・ネラトンチューブの挿入・造影剤の注入、核医学関連機器の操作・検査などが検討され、実施できる方向でまとめられました。また診療放射線技師の診療補助業務拡大を認める条件として、十分な臨床教育を実施すべきであるということが要請されています。そこで本会はこれらの要請に応えるため、平成24年度から「注腸X線検査臨床研修統一講習会」および「静脈注射（針刺しを除く）統一講習会」を全国展開しています。また昨年に引き続き「静脈注射（針刺しを除く）統一講習会」の研修会も、事前登録者を対象として学術大会開催期間中に実施します。公益法人にふさわしい企画としては、市民公開フォーラムを2会場、市民公開講座も2会場準備していますので、多くの市民の方々に参加を頂き、ご自身の健康管理に役立てていただきたいと思います。また日本画像医療システム工業会ならびに関連医療機器メーカー、医薬品メーカーのご協力により、医療機器の展示・医薬品の展示を企画していますので、多くの会員の参加をお願い致します。

最後になりましたが、学術大会の開催に当たり、3年間の長きにわたり準備していただきました小林一郎大会長、森脇郁生副大会長、吉岡隆二実行委員長、各実行委員の皆さま方に感謝を申し上げますとともに、会員の皆さま方のご参加とご協力をお願いする次第です。

平成25年8月吉日